

【令和7年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見												
01	2 高度先端医療の推進 高度先端医療など新しい医療技術について研究及び研修を行うとともに、高齢化社会に向けてより低侵襲な治療や高難度手術を積極的に導入する。また、がんや小児の分野におけるゲノム医療を積極的に取り組み、遺伝子レベルで病態を把握することにより、個々の患者に合った最適な医療を効率的に提供する。 3 専門性を発揮したチーム医療の推進 医師・看護師・薬剤師のほか、コメディカル等の専門的知識を有した医療従事者が、医療ニーズに合わせたより質の高い医療を提供するために協働及び連携し、情報の共有化を行う。 また、チーム医療を進める上で、医療従事者は専門性の高い知識や技術を習得し、ガイドラインやプロトコル等を参考にしたクリニカルパスにより、治療の標準化の浸透を図る。 4 医療 DX の積極的な推進 準夜帯や深夜帯における放射線専門医による	2 高度先端医療の推進 ・高度先端医療等新しい医療技術を実施するため、新たに下記の施設認定を取得した。 <施設認定名称> ・経カテーテル的肺動脈弁留置術（Harmony） ・医原性心房中隔欠損（IASD） ・外科系学会社会保険委員会連合が指定した高難度手術（D、E 難度）や遺伝子検査を積極的に実施し、高度先端医療を推進した。 ○高度先端医療の実施状況 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>D, E 難度手術実施数</td><td>5, 437</td><td>5, 558</td><td>5, 635</td></tr><tr><td>遺伝子検査実施数</td><td>1, 310</td><td>1, 480</td><td>1, 551</td></tr></table> ※遺伝子検査：D004-21、D006-2～20、D006-22～30 に該当する検査 3 専門性を発揮したチーム医療の推進 ・異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することにより、治療やケアに当たることができた。 <主な医療チーム> ICT、緩和ケアチーム、呼吸器ケアチーム、褥瘡ケアチーム、 口腔ケアチーム、NST、摂食嚥下チーム、認知症ケアチーム、AST、早期離床リハビリテーションチーム、心不全チーム、排尿自立ケアチーム、術後	項目／年度	R5	R6	R7	D, E 難度手術実施数	5, 437	5, 558	5, 635	遺伝子検査実施数	1, 310	1, 480	1, 551	IV	Ⅱ または Ⅲ	インシデント・アクシデントのうち、アクシデントの件数が横ばいである。より改善を目指してほしい。 追加質問に対する回答において、入退院支援の充実等を持って質の高いレベルの提供に値すると判断しておられるが、病院において最重要課題は患者の安全である。すなわち、医療の質の本質は患者にとって“益”となる医療の提供であるはずである。“益”にならないどころか、死亡事故“害”を与えていることに対して、Ⅳの自己評価をしていることは、この問題に真摯に向き合っているとは思えない。よって、ⅡorⅢが妥当であると考えます。
項目／年度	R5	R6	R7														
D, E 難度手術実施数	5, 437	5, 558	5, 635														
遺伝子検査実施数	1, 310	1, 480	1, 551														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																												
	画像コンサルテーションを引き続き実施するとともに、画像解析についての AI（人工知能）の活用推進に加え、その他の AI ツールについても診療の効率化、医療従事者の負担軽減につながるシステムの調査・検討を行う。また、患者が利用する通院支援アプリの利用拡大に努めるとともに、更なる利便性向上に向け、アプリの機能拡充を推進する。 さらに、効率的かつ効果的な医療提供を行うため、国が推進するマイナ保険証や電子処方箋の利用拡大に努める。 5 入退院支援の充実 患者の状態や社会的背景に応じて、入院前から退院を見据えて患者が安心して過ごせるよう多職種により支援する総合サポートセンターを中心に、入退院支援の充実を図る。入院時支援の対象診療科については、現在支援中の 14 診療科に加え、外科系以外の診療科にも拡大し、更なる充実を図る。 また、総合サポートセンターで対面で行っていた入院患者への説明について、動画で患者へ提供できる環境を継続し、患者の待ち時間の有効活用及び職員の業務改善を推進する。	疼痛管理チーム、腎不全チーム、身体拘束最小化チーム、AYA 世代サポートチーム ○各種チーム加算算定数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>緩和ケア診療加算</td><td>1,783</td><td>1,410</td><td>1,561</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム加算</td><td>4</td><td>12</td><td>16</td></tr><tr><td>褥瘡ハイス患者ケア加算</td><td>1,738</td><td>1,106</td><td>954</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム加算</td><td>1,086</td><td>1,064</td><td>1,112</td></tr><tr><td>認知症ケア加算</td><td>986</td><td>1,351</td><td>1,098</td></tr><tr><td>早期離床リハビリテーション加算</td><td>1,224</td><td>1,442</td><td>1,205</td></tr><tr><td>排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)</td><td>0</td><td>22</td><td>171</td></tr><tr><td>術後疼痛管理チーム加算</td><td>395</td><td>1,230</td><td>1,108</td></tr><tr><td>慢性腎臓病透析予防指導管理料</td><td>0</td><td>76</td><td>109</td></tr></table> ○クリニカルパス適用率 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>使用率</td><td>67.2%</td><td>67.7%</td><td>67.9%</td></tr></table> 4 医療 DX の積極的な推進 ・平成 29 年度及び平成 30 年度に整備した遠隔画像コンサルテーションシステムを積極的に活用し、準夜帯及び深夜帯の院内専門医不在時における画像コンサルテーションを、外部の放射線専門医に依頼することにより、安全かつ質の高い医療を提供した。令和 7 年度は 3,209 件の CT・MRI 検査画像のコンサルテーション依頼を行った。 ○救急の外部コンサルテーション依頼数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>CT</td><td>3,203</td><td>3,178</td><td>2,944</td></tr><tr><td>MRI</td><td>315</td><td>268</td><td>265</td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	緩和ケア診療加算	1,783	1,410	1,561	呼吸ケアチーム加算	4	12	16	褥瘡ハイス患者ケア加算	1,738	1,106	954	栄養サポートチーム加算	1,086	1,064	1,112	認知症ケア加算	986	1,351	1,098	早期離床リハビリテーション加算	1,224	1,442	1,205	排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)	0	22	171	術後疼痛管理チーム加算	395	1,230	1,108	慢性腎臓病透析予防指導管理料	0	76	109	項目/年度	R5	R6	R7	使用率	67.2%	67.7%	67.9%	項目／年度	R5	R6	R7	CT	3,203	3,178	2,944	MRI	315	268	265			
項目／年度	R5	R6	R7																																																														
緩和ケア診療加算	1,783	1,410	1,561																																																														
呼吸ケアチーム加算	4	12	16																																																														
褥瘡ハイス患者ケア加算	1,738	1,106	954																																																														
栄養サポートチーム加算	1,086	1,064	1,112																																																														
認知症ケア加算	986	1,351	1,098																																																														
早期離床リハビリテーション加算	1,224	1,442	1,205																																																														
排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)	0	22	171																																																														
術後疼痛管理チーム加算	395	1,230	1,108																																																														
慢性腎臓病透析予防指導管理料	0	76	109																																																														
項目/年度	R5	R6	R7																																																														
使用率	67.2%	67.7%	67.9%																																																														
項目／年度	R5	R6	R7																																																														
CT	3,203	3,178	2,944																																																														
MRI	315	268	265																																																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																				
		・電子カルテシステム等の更新に合わせて導入した放射線画像 AI 診断システムについて、胸部 X 線画像において全診療科での活用を実施し、医師の負担軽減および質の高い医療の提供を実現した。 ・患者向け通院支援アプリに「かかりつけ医検索」機能を追加し、「急性期病院から地域へ」という逆紹介の流れを促進するための機能強化を実施した。 ・令和6年1月よりマイナ診察券を再来受付機で利用可能とし、令和7年度中は、マイナ診察券の利用促進に取り組んだ。その結果、令和7年度末には利用率が80%まで向上した。また、令和7年9月からはマイナスマホにも対応し、引き続きマイナ診察券の利用推進に向けた取組を継続している。 5 入退院支援の充実 ・入院支援から退院支援への情報共有を図り、患者に継続した支援が実施できるように業務改善を行った。 ・退院支援における患者支援の方法も検討し、安心して退院できるよう業務改善を行った。予定入院する患者の入院当日の面談、入院支援室看護師からの事前の情報共有、病棟カンファレンスへの入院支援室・退院支援室・外来看護師の参加、さらに緊急入院となった患者への面談を確実に実施するようにした。 ・新生児特定集中治療室に入院した患者に対する入退院支援に関する評価である入退院支援加算3を算定する体制を継続した。昨年度に比べて算定数の向上が見られ、加算算定における取組は定着していると考えられる。 ・入退院支援加算1については、令和7年2月からWGを立ち上げ、算定対象者の検討をし、病棟主体の体制を整え、算定向上に向けて取り組んだ。その結果、算定件数は大幅に増加した。 ○入退院支援業務の実施状況 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>入院時支援介入数</td><td>3,601</td><td>4,025</td><td>4,260</td></tr><tr><td>入退院支援加算1 算定数</td><td>6,116</td><td>6,356</td><td>12,373</td></tr><tr><td>入院時支援加算 算定数</td><td>1,984</td><td>2,203</td><td>3,493</td></tr><tr><td>入退院支援加算3</td><td>36</td><td>86</td><td>144</td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	入院時支援介入数	3,601	4,025	4,260	入退院支援加算1 算定数	6,116	6,356	12,373	入院時支援加算 算定数	1,984	2,203	3,493	入退院支援加算3	36	86	144			
項目／年度	R5	R6	R7																						
入院時支援介入数	3,601	4,025	4,260																						
入退院支援加算1 算定数	6,116	6,356	12,373																						
入院時支援加算 算定数	1,984	2,203	3,493																						
入退院支援加算3	36	86	144																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																										
02	3 医療に関する相談体制の充実 外来初診受付付近に患者に分かりやすい相談窓口を設け、相談担当者が対応する。相談内容に応じて関係部署との連携を図り、診療内容、在宅支援、苦情、就労支援をはじめあらゆる相談に迅速に対応可能な体制を整える。 また、毎週カンファレンスを開催し、問題事項についてスタッフ間で協議、共有する。 4 外国人に配慮した受診支援 外国人の対応については、常勤の医療通訳の配置を継続するほか、院内の外国語表示の充実、タブレット端末や電話による医療通訳の活用、医療に関する各種書類等の外国語対応を行い、外国人患者が安心して受診できる体制を維持する。	3 医療に関する相談体制の充実 ・毎週 1 回カンファレンスを開催し、医療相談に係る問題事項や苦情等について協議し、対応した。 ○カンファレンスで協議した事項及び件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>病院の環境</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td></tr><tr><td>患者等からの相談</td><td>6</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>患者相談対応力向上のための事例検討</td><td>31</td><td>33</td><td>54</td></tr><tr><td>患者等からの苦情</td><td>83</td><td>26</td><td>26</td></tr><tr><td>その他</td><td>15</td><td>27</td><td>46</td></tr></table> ・退院支援・福祉制度・経済的な相談が最も多く、身寄りのない患者や特定妊婦などの児童虐待に関わる相談が増加傾向にある。また、入退院支援加算算定数増加の取組と業務の効率化により相談件数が減少した。 ○医療相談件数 単位：件 <table><tr><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>20, 014</td><td>23, 870</td><td>18, 785</td></tr></table> 4 外国人に配慮した受診支援 ・外国人の受診を支援するため、ボランティア及び職員による対応を引き続き行った。 ○医療通訳病院職員対応件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>中国語</td><td>176</td><td>120</td><td>158</td></tr><tr><td>英語</td><td>410</td><td>515</td><td>580</td></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>169</td><td>296</td><td>218</td></tr><tr><td>スペイン語</td><td>55</td><td>47</td><td>39</td></tr><tr><td>その他</td><td>52</td><td>61</td><td>29</td></tr><tr><td>合計</td><td>862</td><td>1, 039</td><td>1, 024</td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	病院の環境	0	8	0	患者等からの相談	6	1	2	患者相談対応力向上のための事例検討	31	33	54	患者等からの苦情	83	26	26	その他	15	27	46	R5	R6	R7	20, 014	23, 870	18, 785	項目／年度	R5	R6	R7	中国語	176	120	158	英語	410	515	580	ポルトガル語	169	296	218	スペイン語	55	47	39	その他	52	61	29	合計	862	1, 039	1, 024	IV		
項目／年度	R5	R6	R7																																																												
病院の環境	0	8	0																																																												
患者等からの相談	6	1	2																																																												
患者相談対応力向上のための事例検討	31	33	54																																																												
患者等からの苦情	83	26	26																																																												
その他	15	27	46																																																												
R5	R6	R7																																																													
20, 014	23, 870	18, 785																																																													
項目／年度	R5	R6	R7																																																												
中国語	176	120	158																																																												
英語	410	515	580																																																												
ポルトガル語	169	296	218																																																												
スペイン語	55	47	39																																																												
その他	52	61	29																																																												
合計	862	1, 039	1, 024																																																												

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																				
		○医療通訳ボランティア派遣依頼件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>57</td><td>77</td><td>111</td></tr><tr><td>中国語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>タガログ語</td><td>5</td><td>9</td><td>15</td></tr><tr><td>ベトナム語</td><td>－</td><td>－</td><td>2</td></tr><tr><td>合計</td><td>62</td><td>86</td><td>128</td></tr></table> ・電話による通訳サービスを継続し、通訳担当職員不在時（夜間休日）等にも対応できるよう努めた。 ○電話通訳サービス利用件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>中国語</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>タガログ語</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>ベトナム語</td><td>0</td><td>4</td><td>1</td></tr><tr><td>英語</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>スペイン語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>タイ語</td><td>6</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>ミャンマー語</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>インドネシア語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合計</td><td>10</td><td>12</td><td>5</td></tr></table> ・医療に関する各種書類については、説明書等の文書や患者の診断書の翻訳版を提供することで、外国人患者が安心して受診できる体制の構築に努めた。 今年度は、初診時に使用する問診票について英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語に翻訳したものを作成した。	項目／年度	R5	R6	R7	ポルトガル語	57	77	111	中国語	0	0	0	タガログ語	5	9	15	ベトナム語	－	－	2	合計	62	86	128	項目／年度	R5	R6	R7	ポルトガル語	0	2	0	中国語	0	2	0	タガログ語	0	1	0	ベトナム語	0	4	1	英語	1	0	0	スペイン語	0	0	0	タイ語	6	2	4	ミャンマー語	3	1	0	インドネシア語	0	0	0	合計	10	12	5			
項目／年度	R5	R6	R7																																																																						
ポルトガル語	57	77	111																																																																						
中国語	0	0	0																																																																						
タガログ語	5	9	15																																																																						
ベトナム語	－	－	2																																																																						
合計	62	86	128																																																																						
項目／年度	R5	R6	R7																																																																						
ポルトガル語	0	2	0																																																																						
中国語	0	2	0																																																																						
タガログ語	0	1	0																																																																						
ベトナム語	0	4	1																																																																						
英語	1	0	0																																																																						
スペイン語	0	0	0																																																																						
タイ語	6	2	4																																																																						
ミャンマー語	3	1	0																																																																						
インドネシア語	0	0	0																																																																						
合計	10	12	5																																																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																				
03	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 患者動向、医療需要の変化及び医療の進歩に対応するため、診療科や専門外来の新設等、患者ニーズに対応したきめ細やかかつ持続可能な診療体制の充実を図る。	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 ・患者動向や医療需要の変化に対応した組織改編等に積極的に取り組んだことにより、患者に対してよりきめ細やかなサービスを提供することができた。 新たな診療部門の設置や需要に対応するため医療支援部門の新設・再編等、将来を見据えた診療体制の充実を図った。 ○組織・診療科等の新設等 【診療部門】 ・大腸外科、心臓血管麻酔科、リウマチ・乾癬・膠原病診療部、呼吸器先進診療部 【医療支援部門】 ・血液・一般検査担当、生化・免疫検査担当、微生物検査担当（改称）	IV		医師の再雇用が12人と多いように思います。医師不足でしょうか。給与額収益比率が上がらないか心配です。																				
04	1 地域の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 当センターと地域医療機関がそれぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、「地域医療支援病院」及び「紹介受診重点医療機関」として、紹介率の維持・向上（75%以上）及び逆紹介率の維持・向上（110%以上）を目指すことで、地域の医療機関との連携及び協力体制の更なる充実を図る。特に、逆紹介については、紹介元への確実な逆紹介に加え、地域医療連携支援システム（逆紹介したい疾患を受け入れることが可能な医療機関を地図上に表示し、患者の自宅から通院しやすい診療所を検索できるシステム）を活用した新規の逆紹介を推進する。 また、地域の各医療機関への積極的な訪問やWEB 予約システムの活用、メール等を利用した各種情報提供等により、開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大や紹介患者数の増加を目指す	1 地域の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 ・逆紹介プロジェクトチームを中心に、逆紹介を推進する活動として、病院としての逆紹介基準の作成や患者用ビデオを作成し、啓発活動を行った。かかりつけ医紹介窓口の依頼件数は219件であった。今年度の目標（100件）を達成しており、今後も継続して活動していく。 ・紹介率・逆紹介率について、年度計画（紹介率 75%以上、逆紹介率 110%以上）の目標に対して紹介率・逆紹介率ともに達成できた。「かかりつけ医紹介窓口」を全診療科に実施し、外来患者の逆紹介につなげた。 ○紹介率・逆紹介率 単位：％ <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>74.3</td><td>78.3</td><td>78.6</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>111.2</td><td>114.2</td><td>113.7</td></tr></table> ・転院先となる医療機関等への訪問件数は、地域医療連携部の協力のもと増加した。 ○医療機関への訪問件数 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	紹介率	74.3	78.3	78.6	逆紹介率	111.2	114.2	113.7	項目／年度	R5	R6	R7					IV	Ⅲ	連携パス新規実績が下がってきています。 パスの運用にご協力いただきたい。 近隣クリニック訪問件数が増えているのは、忙しい中素晴らしい。 ここで求められているのは、県総が果たすべく役割を明確化し、地域の病院・開業医と役割を分担することである。分担とは、ある機能は県総が担い、別のある機能は地域の病院・開業医に渡すことである。県総が多くの機能を担っているのは評価できるが、どの機能を他の医療機関と分担しているかは明白ではない。確かに、紹介・逆紹介はある程度行われているが、こ
項目／年度	R5	R6	R7																						
紹介率	74.3	78.3	78.6																						
逆紹介率	111.2	114.2	113.7																						
項目／年度	R5	R6	R7																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見					
	し、「病病連携」や「病診連携」を推進する。 3 疾病予防の推進 糖尿病患者に対する重症化及び合併症発症の予防や、心不全患者及び慢性腎臓病患者に対する重症化予防に取り組む。また、感染予防に配慮した上で、健康祭や糖尿病教室等の各種行事を通じて疾患予防の周知に努める。	<table><tr><td>転院先</td><td>22</td><td>19</td><td>20</td></tr><tr><td>開業医</td><td>149</td><td>250</td><td>488</td></tr></table> ○連携関連件数	転院先	22	19	20	開業医	149	250	488
転院先	22	19	20							
開業医	149	250	488							

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																												
		3 疾病予防の推進 ・糖尿病患者に対する栄養指導を積極的に実施した結果、糖尿病患者に対する実施率は増加した。心不全患者に対しては患者の高齢化に伴い患者本人への指導が困難な中、実施率は維持できた。 ○各疾患に対する栄養指導実施率 単位：％ <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>糖尿病</td><td>93.6</td><td>89.8</td><td>97.2</td></tr><tr><td>心不全</td><td>46.5</td><td>47.7</td><td>47.5</td></tr></table> ・糖尿病教室は12回実施した。 ・令和7年11月8日に「今から始める健康習慣」～あなたらしく輝くために～をテーマに健康祭を実施した。医師による「認知症の早期診断の重要性とアルツハイマー病の新しい治療」他4講演を行い、来場者対象の骨密度測定の実施、また内視鏡検査体験・ロコモ体験・利き手交換体験・災害食体験・沐浴体験・妊婦体験を実施した。	項目／年度	R5	R6	R7	糖尿病	93.6	89.8	97.2	心不全	46.5	47.7	47.5																			
項目／年度	R5	R6	R7																														
糖尿病	93.6	89.8	97.2																														
心不全	46.5	47.7	47.5																														
05	2 心血管疾患医療 心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患、慢性心不全、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管疾患、不整脈等心血管系の疾患患者に対し、内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携したチーム医療を推進するとともに、高齢化社会に対応した低侵襲治療を充実させることで、不整脈治療、カテーテル治療、外科的治療、ハイブリッド治療、心臓リハビリテーション等患者にとって最新で最適な治療を提供する。 3 周産期医療 総合周産期部（産科・胎児診療科）と新生児医療部（新生児内科）を基幹として、出生前診断・胎児治療を含め各科の枠を超えた母とこどもの総合的な高度医療を提供する。 各部門では、重症なハイリスク妊産婦や超低出生体重児などの重症児をはじめとして他施設では	2 心血管疾患医療 ・内科系の循環器内科と外科系の心臓血管外科が連携してチーム医療を行う県内初の施設として、心臓血管系の疾患患者に対応するとともに、不整脈科等設置した専門の診療科において、それぞれの患者に最適な治療を提供することができた。 ○手術・検査数 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>心臓カテーテル</td><td>1,142</td><td>1,020</td><td>931</td></tr><tr><td>PCI（経皮的冠動脈形成術）</td><td>473</td><td>503</td><td>524</td></tr><tr><td>冠動脈バイパス術</td><td>36</td><td>44</td><td>25</td></tr><tr><td>弁置換術</td><td>16</td><td>14</td><td>19</td></tr><tr><td>弁形成術</td><td>10</td><td>7</td><td>5</td></tr><tr><td>大動脈瘤切除術</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	心臓カテーテル	1,142	1,020	931	PCI（経皮的冠動脈形成術）	473	503	524	冠動脈バイパス術	36	44	25	弁置換術	16	14	19	弁形成術	10	7	5	大動脈瘤切除術	38	46	46	IV		周産期の最後の砦としての働きを十分担っていただいています。
項目／年度	R5	R6	R7																														
心臓カテーテル	1,142	1,020	931																														
PCI（経皮的冠動脈形成術）	473	503	524																														
冠動脈バイパス術	36	44	25																														
弁置換術	16	14	19																														
弁形成術	10	7	5																														
大動脈瘤切除術	38	46	46																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																				
	対応困難な症例に対して、専用のドクターカー（すこやか号）やドクターヘリ等による母体搬送や新生児搬送を 24 時間体制で受け入れるとともに、出生前診断や胎児治療等の最新の治療を提供することで、後遺症なき発育を目指す。 県下全域に影響が危惧される事案が発生した場合には、岐阜県及び岐阜県周産期医療協議会等へ報告するとともに連携し協力体制を整える。 また、各自治体に整備されたこども家庭センターと母子手帳交付時や出産前から産後まで密に連携を図り、ハイリスク症例のメンタルサポート、特定妊婦や社会的リスクを伴う家庭の支援を丁寧に行う。主に、医師、看護師、助産師、心理士、MSW 等の多職種からなる連携チームを構成し、母とこども医療センター運営委員会、児童虐待予防委員会を通じて切れ目のない支援を目指す。 5 がん医療 地域がん診療連携拠点病院として各部署の機能を一層充実させ、院内がん登録数、がん相談件数等を増加させる。地域の患者と医療機関からの信頼を得るべく、あらゆる病期のがん患者に対して、診療ガイドラインに基づいた良質な医療を提供する。また、新たに導入するサイバーナイフを含め、南棟に整備した高精度放射線治療装置を活用し、様々な部位のがんの根治を目指した放射線治療を行う。 最新技術を用いて、がんの早期診断、早期治療に努めるとともに、進行がん患者に対しては、集学的治療により、更なる治療成績の向上を図る。ロボット手術の保険収載術式の拡大に伴い、各診療科においても、先進的低侵襲治療を積極的に展開させる。 ゲノム医療については、がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院を中心	○循環器系 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>Ablation（アブレーション）</td><td>299</td><td>313</td><td>449</td></tr><tr><td>PMI（ペースメーカー）</td><td>144</td><td>146</td><td>127</td></tr><tr><td>CRT（心臓再同期療法）</td><td>3</td><td>11</td><td>7</td></tr><tr><td>ICD（植込み型除細動器）</td><td>35</td><td>31</td><td>29</td></tr><tr><td>CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td></tr></table> ○心臓血管系 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>EVAR（腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）</td><td>27</td><td>12</td><td>22</td></tr><tr><td>TEVAR（胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>TAVI（TAVR）（経カテーテル大動脈弁置換術）</td><td>57</td><td>51</td><td>44</td></tr><tr><td>MitraClip（経皮的僧帽弁接合不全修復術）</td><td>19</td><td>25</td><td>11</td></tr><tr><td>左心耳閉鎖術（経カテーテル）</td><td>48</td><td>33</td><td>31</td></tr></table> 3 周産期医療 <総合周産期センターの運営> ・新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能等の統合を継続し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供した。特に、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行った。 ・当センターを受診されている妊婦だけではなく、緊急母体搬送で送られてくるハイリスク妊婦を 24 時間体制で受け入れた。 ○母体搬送の受入件数 単位：件 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	Ablation（アブレーション）	299	313	449	PMI（ペースメーカー）	144	146	127	CRT（心臓再同期療法）	3	11	7	ICD（植込み型除細動器）	35	31	29	CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	10	13	12	項目／年度	R5	R6	R7	EVAR（腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	27	12	22	TEVAR（胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	6	8	8	TAVI（TAVR）（経カテーテル大動脈弁置換術）	57	51	44	MitraClip（経皮的僧帽弁接合不全修復術）	19	25	11	左心耳閉鎖術（経カテーテル）	48	33	31	項目/年度	R5	R6	R7			
項目／年度	R5	R6	R7																																																						
Ablation（アブレーション）	299	313	449																																																						
PMI（ペースメーカー）	144	146	127																																																						
CRT（心臓再同期療法）	3	11	7																																																						
ICD（植込み型除細動器）	35	31	29																																																						
CRT-D（両室ペーシング機能付植込み型除細動器）	10	13	12																																																						
項目／年度	R5	R6	R7																																																						
EVAR（腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	27	12	22																																																						
TEVAR（胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	6	8	8																																																						
TAVI（TAVR）（経カテーテル大動脈弁置換術）	57	51	44																																																						
MitraClip（経皮的僧帽弁接合不全修復術）	19	25	11																																																						
左心耳閉鎖術（経カテーテル）	48	33	31																																																						
項目/年度	R5	R6	R7																																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																																																																
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																
	に地域の医療機関と連携し、遺伝子変異に基づいた個別化治療につなげるためのがん遺伝子パネル検査を推進する。 若年世代のがん患者が増加していることから、就学や就労、生殖機能の温存等のニーズに対応できるように近隣の病院や専門施設との連携を強化する。 化学療法部門では、快適な環境下で多職種スタッフが関わり、安全で質の高い化学療法ができるように運営する。 緩和ケア部門では、がん患者の外来・入院時のスクリーニングを推進し、緩和ケアチームが積極的に関われる体制を強化する。また、緩和ケア外来、がん看護外来及び緩和ケア病床の充実を図るとともに、緩和ケアの患者がいつでも緊急入院できる体制を整える。 地域連携カンファレンスや診療所訪問などを通じて、顔の見える病診連携を進め、在宅緩和ケアなど患者の希望に沿った切れ目のない緩和ケアを展開する。 がん相談支援部門では、患者のニーズを踏まえたがん患者及びその家族の在宅医療支援や就労支援に力を入れ、利用者数の増加を図っていく。	<table><tr><td>母体搬送</td><td>143 (3)</td><td>153 (2)</td><td>157 (1)</td></tr><tr><td>救急搬送</td><td>7</td><td>15</td><td>14</td></tr><tr><td>分娩件数</td><td>517</td><td>473</td><td>437</td></tr></table> ※（ ）はヘリコプター搬送《内数》 ○産科合併症 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>早産</td><td>140</td><td>111</td><td>118</td></tr><tr><td>HDP (妊娠高血圧症候群)</td><td>18</td><td>20</td><td>14</td></tr><tr><td>常位胎盤・早期剥離</td><td>5</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>胎盤位置異常</td><td>29</td><td>38</td><td>47</td></tr><tr><td>羊水の異常</td><td>34</td><td>87</td><td>81</td></tr><tr><td>胎児異常</td><td>92</td><td>120</td><td>104</td></tr><tr><td>FGR (胎児発育不全)</td><td>33</td><td>62</td><td>63</td></tr></table> ○合併症妊娠 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>婦人科系疾患</td><td>153</td><td>178</td><td>188</td></tr><tr><td>心・血管疾患</td><td>22</td><td>12</td><td>13</td></tr><tr><td>血液疾患</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>腎疾患</td><td>13</td><td>17</td><td>12</td></tr><tr><td>糖尿病・妊娠性糖尿病</td><td>49</td><td>23</td><td>25</td></tr><tr><td>甲状腺疾患</td><td>37</td><td>31</td><td>49</td></tr><tr><td>自己免疫・膠原病</td><td>6</td><td>7</td><td>12</td></tr><tr><td>呼吸器疾患</td><td>26</td><td>23</td><td>24</td></tr><tr><td>消化器疾患</td><td>13</td><td>7</td><td>2</td></tr><tr><td>精神・神経系</td><td>27</td><td>14</td><td>37</td></tr><tr><td>運動機能系</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> ○ハイリスク妊婦・分娩等（対象者） 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr></table>	母体搬送	143 (3)	153 (2)	157 (1)	救急搬送	7	15	14	分娩件数	517	473	437	項目／年度	R5	R6	R7	早産	140	111	118	HDP (妊娠高血圧症候群)	18	20	14	常位胎盤・早期剥離	5	13	12	胎盤位置異常	29	38	47	羊水の異常	34	87	81	胎児異常	92	120	104	FGR (胎児発育不全)	33	62	63	項目／年度	R5	R6	R7	婦人科系疾患	153	178	188	心・血管疾患	22	12	13	血液疾患	4	5	10	腎疾患	13	17	12	糖尿病・妊娠性糖尿病	49	23	25	甲状腺疾患	37	31	49	自己免疫・膠原病	6	7	12	呼吸器疾患	26	23	24	消化器疾患	13	7	2	精神・神経系	27	14	37	運動機能系	0	0	0	項目／年度	R5	R6	R7			
母体搬送	143 (3)	153 (2)	157 (1)																																																																																																		
救急搬送	7	15	14																																																																																																		
分娩件数	517	473	437																																																																																																		
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																																		
早産	140	111	118																																																																																																		
HDP (妊娠高血圧症候群)	18	20	14																																																																																																		
常位胎盤・早期剥離	5	13	12																																																																																																		
胎盤位置異常	29	38	47																																																																																																		
羊水の異常	34	87	81																																																																																																		
胎児異常	92	120	104																																																																																																		
FGR (胎児発育不全)	33	62	63																																																																																																		
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																																		
婦人科系疾患	153	178	188																																																																																																		
心・血管疾患	22	12	13																																																																																																		
血液疾患	4	5	10																																																																																																		
腎疾患	13	17	12																																																																																																		
糖尿病・妊娠性糖尿病	49	23	25																																																																																																		
甲状腺疾患	37	31	49																																																																																																		
自己免疫・膠原病	6	7	12																																																																																																		
呼吸器疾患	26	23	24																																																																																																		
消化器疾患	13	7	2																																																																																																		
精神・神経系	27	14	37																																																																																																		
運動機能系	0	0	0																																																																																																		
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																																		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																																														
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見																																																																												
		<table><tr><td>総合周産期加算</td><td>310</td><td>264</td><td>251</td></tr><tr><td>ハイリスク妊娠</td><td>287</td><td>217</td><td>217</td></tr><tr><td>ハイリスク分娩</td><td>132</td><td>116</td><td>95</td></tr><tr><td>救急加算</td><td>148</td><td>171</td><td>158</td></tr></table> ○保健指導実績 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>保健指導</td><td>1, 167</td><td>1, 114</td><td>978</td></tr><tr><td>母乳相談</td><td>92</td><td>77</td><td>80</td></tr></table> <新生児医療センターの運営> ・超低出生体重児は 34 名と過去 5 年間で最多であった。 ・院外出生児に関しては、当院でしか管理できない中等症・重症例を中心に受け入れた結果、81 名と前年度をはるかに上回った。 ・手術担当の診療科に受入可能を確認した上で、新生児手術症例の受入を行ったが、小児外科の手術件数が大きく減少し総数 30 件と前年を下回った。 ○出生、母体搬送件数 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>院内出生</td><td>225</td><td>208</td><td>171</td></tr><tr><td>院外出生</td><td>38</td><td>50</td><td>81</td></tr><tr><td>母体搬送経由</td><td>44</td><td>43</td><td>26</td></tr><tr><td>超低出生体重児</td><td>31</td><td>23</td><td>34</td></tr><tr><td>極低出生体重児</td><td>50</td><td>62</td><td>60</td></tr></table> ○新生児手術状況 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>小児心臓外科</td><td>8</td><td>13</td><td>11</td></tr><tr><td>小児脳神経外科</td><td>1</td><td>7</td><td>1</td></tr><tr><td>小児外科</td><td>26</td><td>31</td><td>17</td></tr><tr><td>耳鼻科(気管切開)</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>37</td><td>54</td><td>30</td></tr></table>				総合周産期加算	310	264	251	ハイリスク妊娠	287	217	217	ハイリスク分娩	132	116	95	救急加算	148	171	158	項目／年度	R5	R6	R7	保健指導	1, 167	1, 114	978	母乳相談	92	77	80	項目／年度	R5	R6	R7	院内出生	225	208	171	院外出生	38	50	81	母体搬送経由	44	43	26	超低出生体重児	31	23	34	極低出生体重児	50	62	60	項目／年度	R5	R6	R7	小児心臓外科	8	13	11	小児脳神経外科	1	7	1	小児外科	26	31	17	耳鼻科(気管切開)	2	3	1	合計	37	54	30			
総合周産期加算	310	264	251																																																																																	
ハイリスク妊娠	287	217	217																																																																																	
ハイリスク分娩	132	116	95																																																																																	
救急加算	148	171	158																																																																																	
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																	
保健指導	1, 167	1, 114	978																																																																																	
母乳相談	92	77	80																																																																																	
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																	
院内出生	225	208	171																																																																																	
院外出生	38	50	81																																																																																	
母体搬送経由	44	43	26																																																																																	
超低出生体重児	31	23	34																																																																																	
極低出生体重児	50	62	60																																																																																	
項目／年度	R5	R6	R7																																																																																	
小児心臓外科	8	13	11																																																																																	
小児脳神経外科	1	7	1																																																																																	
小児外科	26	31	17																																																																																	
耳鼻科(気管切開)	2	3	1																																																																																	
合計	37	54	30																																																																																	

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																				
		5　がん医療 ・がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携、あらゆる病期のがん患者に対して、良質な医療を提供した結果、入院患者および外来患者は増加した。 ○がん患者数単位：人 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>入院</td><td>3,465</td><td>3,395</td><td>3,403</td></tr><tr><td>外来</td><td>75,528</td><td>79,829</td><td>80,918</td></tr><tr><td>がん患者死亡数</td><td>79</td><td>89</td><td>83</td></tr></table> ・医療従事者や一般市民を対象とした研修会やがん事例の検討を行う「がんカンファレンス」、末期がん患者の症例や課題を検討する「病診連携緩和ケアカンファレンス」を感染防止に配慮するためハイブリッド形式で開催し、がん医療に係る啓発を行った。 ・がん専門認定看護師及びがん関連分野認定看護師が、がん治療及び療養に携わった。 ○がん治療及び療養に携わるがん認定看護師等単位：人 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>がん看護専門看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>がん性疼痛看護師認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>がん化学療法認定看護師</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>がん放射線療法認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>乳がん看護認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>緩和ケア認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>皮膚・排泄ケア認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>摂食嚥下障害認定看護師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> ・身体的・精神的な苦痛を和らげる緩和ケアについて、チームとして取り組んだ。	項目／年度	R5	R6	R7	入院	3,465	3,395	3,403	外来	75,528	79,829	80,918	がん患者死亡数	79	89	83	項目／年度	R5	R6	R7	がん看護専門看護師	1	1	1	がん性疼痛看護師認定看護師	1	1	1	がん化学療法認定看護師	3	3	2	がん放射線療法認定看護師	1	1	1	乳がん看護認定看護師	1	1	1	緩和ケア認定看護師	1	1	1	皮膚・排泄ケア認定看護師	1	1	1	摂食嚥下障害認定看護師	2	2	2			
項目／年度	R5	R6	R7																																																						
入院	3,465	3,395	3,403																																																						
外来	75,528	79,829	80,918																																																						
がん患者死亡数	79	89	83																																																						
項目／年度	R5	R6	R7																																																						
がん看護専門看護師	1	1	1																																																						
がん性疼痛看護師認定看護師	1	1	1																																																						
がん化学療法認定看護師	3	3	2																																																						
がん放射線療法認定看護師	1	1	1																																																						
乳がん看護認定看護師	1	1	1																																																						
緩和ケア認定看護師	1	1	1																																																						
皮膚・排泄ケア認定看護師	1	1	1																																																						
摂食嚥下障害認定看護師	2	2	2																																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																
		○緩和ケアチームの人員体制等 ・医師 7 人、看護師 5 人、薬剤師 2 人、臨床心理士 1 人、管理栄養士 1 人、 リハビリ 1 人 ・依頼者数 令和5年度：281 人 → 令和6年度：245 人 → 令和7年度：267 人 ○治療の実績 単位：人 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>外科的治療</td><td>1, 44 8 (188)</td><td>1, 501 (253)</td><td>1, 503 (387)</td></tr><tr><td>外来がん化学療法</td><td>6, 52 5</td><td>7, 131</td><td>7, 464</td></tr><tr><td>入院がん化学療法</td><td>3, 11 5</td><td>2, 682</td><td>2, 801</td></tr><tr><td>放射線治療</td><td>510</td><td>661</td><td>753</td></tr></table> ※（ ）はダ・ヴィンチによる手術《内数》 ・ゲノム医療に関しては、がんゲノム連携病院として、49 件のがん遺伝子パネ ル検査を実施した。 ・がん相談支援センターとして、「相談室」、「退院サポート部」及び「セカンド オピニオン」のがん相談をとりまとめている。 ・がん患者の就労支援として、社会保険労務士及び両立支援促進員による相談 をそれぞれ月 1 回、ハローワーク就労支援員による相談を月 2 回実施した。 ○がん相談支援センターの活動実績 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>がん相談</td><td>1, 262</td><td>1, 140</td><td>1, 282</td></tr><tr><td>就労支援（がん）</td><td>18</td><td>21</td><td>28</td></tr></table> ・平成 24 年度から、がん患者や家族のための「ほっとサロン」を毎日開催し、 ピアサポーターによる支援を実施した。	項目／年度	R5	R6	R7	外科的治療	1, 44 8 (188)	1, 501 (253)	1, 503 (387)	外来がん化学療法	6, 52 5	7, 131	7, 464	入院がん化学療法	3, 11 5	2, 682	2, 801	放射線治療	510	661	753	項目／年度	R5	R6	R7	がん相談	1, 262	1, 140	1, 282	就労支援（がん）	18	21	28			
項目／年度	R5	R6	R7																																		
外科的治療	1, 44 8 (188)	1, 501 (253)	1, 503 (387)																																		
外来がん化学療法	6, 52 5	7, 131	7, 464																																		
入院がん化学療法	3, 11 5	2, 682	2, 801																																		
放射線治療	510	661	753																																		
項目／年度	R5	R6	R7																																		
がん相談	1, 262	1, 140	1, 282																																		
就労支援（がん）	18	21	28																																		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																
		○ほっとサロン利用人数 単位：人 <table><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>718</td><td>923</td><td>1,066</td></tr></table> ・AYA 世代サポートチームの活動を令和4年11月から開始した。隔月の最終月曜日にチーム会議を開催した他、AYA 世代（15～39 歳）のがん患者さんへの様々な支援を充実する活動（令和8年3月7日 AYA WEEK2026GIFU へのイベント参加や院内広報等）を行った。	R5	R6	R7	718	923	1,066													
R5	R6	R7																			
718	923	1,066																			
07	1 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データを分析し、医療情報として院内に提供することで、医療の質向上を図るとともに、効果的・効率的な治療の実施を支援する。 また、診療録記載内容の監査、病理検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、院内の医療従事者の総合的なレベルアップを図り、医療の安全と質の向上を推進する。 診療情報の提供においては、ぎふ清流ネット（県内の情報提供病院の診療情報を診療所等から閲覧できるネットワークシステム）を活用して、検査結果や放射線検査画像等を地域の医療機関に迅速に提供し、病診連携などの医療体制の強化を図る。	1 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 ・医師、看護師、コメディカルが記載した電子カルテの診療記録について、記述内容等を診療情報管理部会の医師、看護師、コメディカル、診療情報管理士の多職種で監査し、そのレベル向上を図るとともに、病理検査結果、内視鏡検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、医療の安全と質の向上に努めた。また、医療画像の提供（7,606 件）やぎふ清流ネットの活用により、病診連携の実現に努めた。 ・診療情報として蓄積された DPC データについては、多職種で構成する分析チームにより、分析ソフトによる解析とコンサルタントを活用した11 診療科の分析を実施し、医師・看護師への報告会を開催した。また、分析報告により指摘した事項について、半年後の定量的な評価を継続した。 ○分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用 <table><tr><td>項目</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>分析報告会開催回数</td><td>10</td><td>10</td><td>9</td></tr><tr><td>定量評価</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>委託費用（千円）</td><td>2,933</td><td>2,933</td><td>2,879</td></tr></table>	項目	R5	R6	R7	分析報告会開催回数	10	10	9	定量評価	○	○	○	委託費用（千円）	2,933	2,933	2,879	IV		
項目	R5	R6	R7																		
分析報告会開催回数	10	10	9																		
定量評価	○	○	○																		
委託費用（千円）	2,933	2,933	2,879																		
10	2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による岐阜県全体の医療の確保 へき地医療拠点病院として、医師不足地域や医		III	II	他医療機関への人的支援について、さらなる支援を期待する。 飛騨の医師不足地域への人的支援																

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見												
	師不足診療科、へき地診療所等への診療支援（人的支援）を継続して実施する。 また、岐阜県へき地医療支援機構やへき地診療所等からの代診要請等に積極的に対応し、診療支援等の人的支援を行う。 さらに、新専門医制度における研修プログラムや岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを活用した医師不足解消に向けた取組に積極的に参加するとともに、へき地医療機関と連携し、研修の動機付け・総括等、研修医のへき地医療研修支援を行う。				が必要。 R5 年から R7 にかけての人的支援について、下呂や高山の減少しているデータからすれば、計画を下回っていると判断すべきだと思います。												
11	社会的な要請への協力 医療に関する鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対する協力を行う。		Ⅲ		医師会立看護養成所への講師派遣もお願いしたい。 医療人材育成にも今以上に貢献いただきたい。												
12	1 公開講座、医療相談会等の定期的開催 県民に関心の高いテーマを取り上げ、県民向けのセミナーや各部門が情報を発信する「健康祭」や地域住民・医療者を対象とした公開講座を開催する。 2 保健医療、健康管理等の情報提供 広報誌「けんこう」や地域医療連携広報誌「れんけい」の定期発行に加え、「けんこう」の特別号である「つなぐ」の随時発行、当センターを紹介した「診療案内」の適宜改定や病院ホームページでの掲載等を通じて、病院が有する保健医療情報を積極的に提供する。	1 公開講座、医療相談会等の定期的開催 ・令和7年11月8日に「今から始める健康習慣」～あなたらしく輝くために～をテーマに健康祭を実施した。医師による「認知症の早期診断の重要性とアルツハイマー病の新しい治療」のほか4講演を行い、来場者対象の骨密度測定の実施、また内視鏡検査体験・ロコモ体験・利き手交換体験・災害食体験・沐浴体験・妊婦体験を実施した。 ・令和8年2月28日に、日本アレルギー協会東海支部との共催で、アレルギーに関する市民公開講座をWEB上でライブ配信した。 ○健康祭の実施状況 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><th>テーマ</th><td>救急医療・放射線治療</td><td>病院をシェアしてもらう</td><td>生活習慣</td></tr><tr><th>参加者数（人）</th><td>108※</td><td>414</td><td>653</td></tr></table> ※令和5年度は視聴者数 2 保健医療、健康管理等の情報提供 ・広報誌「けんこう」を1回発行した。また、地域医療連携誌「れんけい」と、「けんこう」の特別号である「つなぐ」をそれぞれ2回発行した。	項目/年度	R5	R6	R7	テーマ	救急医療・放射線治療	病院をシェアしてもらう	生活習慣	参加者数（人）	108※	414	653	Ⅳ		
項目/年度	R5	R6	R7														
テーマ	救急医療・放射線治療	病院をシェアしてもらう	生活習慣														
参加者数（人）	108※	414	653														

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
		・プレス発表や取材協力等マスメディアを活用した情報発信を行った。 ・「地域の患者さんや開業医とのつながりを重視し、必要な情報選択に迷わないホームページ」をコンセプトとした病院ホームページリニューアルのための準備を行った。（令和8年4月1日 リニューアル完了）			
13	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 地域の災害拠点病院や消防機関と連携し、災害医療の教育・研修・訓練を実施する。また、既存の食料等の優先納入契約を継続するとともに必要に応じて見直しを行う。	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 ・災害時における医療体制の連携強化のため、岐阜大学医学部附属病院と被害状況及び災害体制についての情報共有訓練を実施した。 ・事件現場における傷病者の発生に対し、応急的な治療を行うことで救命率を向上させるため、岐阜県警察と事件現場医療派遣チーム（IMAT）の運用に関する協定を継続した。	IV		
15	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室において二重化している診療情報データや遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。 また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努める。	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 ・大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室および遠隔地へのバックアップ体制を構築し、診療情報の適正な維持管理を継続した。 ・各部署に配備された診療情報参照用端末（ローカルSS-MIXストレージ）の保守点検を徹底し、常時閲覧可能な環境を維持した。 ・サイバー攻撃等の不測の事態を想定し、「医療総合情報システム事業継続計画（IT-BCP）」を策定した。また、非常時における情報資産の保護と早期復旧に向けた体制を整備した。	IV		
16	1 新興感染症発生時における受入体制の整備 岐阜県と締結した医療措置協定に基づき、新興感染症発生時における予防接種の実施に関する協力を含めた患者受入体制を状況に応じて柔軟かつ機動的に整備し、物資については平時から必要数を確保する。 また、新型インフルエンザ等対策特別措置法における指定地方公共機関として、同法及び業務計画に定めるところにより、岐阜県、関係市町及び医療機関と相互に連携・協力し、新型インフルエンザ等の患者の外来診療・入院の受入れ、重症症例の治療等を行う。	1 新興感染症発生時における受入体制の整備 ・令和2年2月に立ち上げたCOVID-19対策本部を継続し、病院幹部と各部門責任者、感染対策部メンバー等などにより2か月に1回程度開催した。（令和7年度で定期開催は終了） ・診療・検査医療機関として、発熱外来を設置し発熱患者のトリアージを継続した。 ・5階西病棟を新興感染症発生時の受入病棟として確保するとともに、業務計画の見直しを行い、新型インフルエンザ等対策準備検討委員会の承認を得た。 ・医療措置協定に基づきマスク・ガウン・手袋などの防護具の備蓄を2か月分確保することに努めた。	IV		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																			
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																		
18	1 レスパイトケアのための短期入所機能の充実 在宅で重症心身障がい児を抱える家族の精神的・身体的負担の軽減を図るため、医療型障害児入所施設内の空床利用による短期入所機能を利用者のニーズに応じて充実させる。	1 レスパイトケアのための短期入所機能の充実 ・重症心身障がい児（者）の在宅療養が増える傾向にあり、保護者等の介護の負担軽減と児（者）への良好な療養環境の提供を目指して、段階的に短期入所を増床して受入人数を増やした。 ・利用延人数は前年度比3%の増、利用延べ日数は前年比 5.6%の増となっており、利用が増加した。 ○短期入所定員数（空床利用型）の推移 <table><tr><td>H28.7～H29.10</td><td>定員2人</td></tr><tr><td>H29.11～R5.1</td><td>定員3人</td></tr><tr><td>R5.2～R5.4</td><td>定員4人</td></tr><tr><td>R5.5～R5.9</td><td>定員5人</td></tr><tr><td>R5.10～</td><td>定員6人</td></tr></table> ○短期入所施設の利用状況 <table><tr><td>項目/年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>契約者数</td><td>107 人</td><td>107 人</td><td>107 人</td></tr><tr><td>利用延人員</td><td>246 人</td><td>347 人</td><td>359 人</td></tr><tr><td>利用延日数</td><td>1,283 日</td><td>1,541 日</td><td>1,627 日</td></tr><tr><td>利用率</td><td>64.7%</td><td>70.3%</td><td>74.3%</td></tr><tr><td>予約率</td><td>73.7%</td><td>80.0%</td><td>82.3%</td></tr></table>	H28.7～H29.10	定員2人	H29.11～R5.1	定員3人	R5.2～R5.4	定員4人	R5.5～R5.9	定員5人	R5.10～	定員6人	項目/年度	R5	R6	R7	契約者数	107 人	107 人	107 人	利用延人員	246 人	347 人	359 人	利用延日数	1,283 日	1,541 日	1,627 日	利用率	64.7%	70.3%	74.3%	予約率	73.7%	80.0%	82.3%	IV		
H28.7～H29.10	定員2人																																						
H29.11～R5.1	定員3人																																						
R5.2～R5.4	定員4人																																						
R5.5～R5.9	定員5人																																						
R5.10～	定員6人																																						
項目/年度	R5	R6	R7																																				
契約者数	107 人	107 人	107 人																																				
利用延人員	246 人	347 人	359 人																																				
利用延日数	1,283 日	1,541 日	1,627 日																																				
利用率	64.7%	70.3%	74.3%																																				
予約率	73.7%	80.0%	82.3%																																				
19	1 組織体制の充実 医療環境の変化や県民の医療需要に的確に対応できるよう弾力的な診療体制づくりを進めるとともに、迅速で柔軟性のある業務運営に努めることで、当センターが有する各種機能が最大限に発揮できる組織体制の充実を図る。 3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実 人事給与システム、勤怠管理システム、旅費システム、医事会計システム、財務会計システム等の機能の見直しを随時行うとともに、RPA（ロボ	1 組織体制の充実 ・リウマチ医療を総合的に提供する部門として「リウマチ・乾癬・膠原病診療部」を新設した。 ・心臓血管麻酔の専門性を高めるため「心臓血管麻酔科」を新設した。 ・ダ・ヴィンチ等の低侵襲外科治療と化学療法を組み合わせた高度な医療を提供するため「大腸外科」を新設した。 ・小型肺癌や重症肺炎腫などの先進医療を総合的に推進していくため「呼吸器先進診療部」を新設した。 ・中央検査部において、組織管理体制を整備するため「検体検査担当」を「血液・一般検査担当」と「生化・免疫検査担当」に分割した。 ・中央検査部において、業務内容からより実態に即した担当名とするため「細菌検査担当」を「微生物検査担当」に改称した。	IV																																				

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																				
	ティック・プロセス・オートメーションの略、人間がパソコン上で日常的に行っている作業を自動化する仕組み)を含めた ICT を有効活用することで、時間外業務の縮減に努める。	3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実 ・人事給与システム、勤怠管理システム、労務システムについて改善点の見直しを行った。来年度のシステム更新に合わせ、申請書や配布物のペーパーレス化を進めるとともに、情報の迅速把握やセキュリティ向上を可能とするシステム設計を行った。 ・各種研修会をオンデマンド形式で配信することができるシステムや小規模な会議等に対応できるオンライン会議システムを活用した。 ・事務部門に加えて医療技術部門にも定型業務の自動化を拡大し、業務負担の軽減を図るため RPA を導入し、病院全体での業務改善を推進した。 ・定年を迎えた事務職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用及び定年延長し、質の高い業務執行に努めた。 ○事務職員再雇用職員数 単位：人 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>再雇用</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>定年延長</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	再雇用	7	7	7	定年延長	1	1	1	合計	8	8	8																							
項目/年度	R5	R6	R7																																						
再雇用	7	7	7																																						
定年延長	1	1	1																																						
合計	8	8	8																																						
20	1 人員配置の検証及び弾力的運用 各職種の職員 1 人あたりの医業収入推移等を検証した上で、医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応した診療科の変更、各職種の人員配置を弾力的に行う。	1 人員配置の検証及び弾力的運用 ・平成 27 年度をベースとした各職種の職員 1 人あたりの医業収入推移を検証し、医療需要と経営状況のバランスを検討した上で、各職種の人員配置を弾力的に行った。 ○各職種の職員 1 人あたりの医業収入 単位：% <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>医師</td><td>106.0</td><td>109.8</td><td>115.2</td></tr><tr><td>看護師</td><td>104.8</td><td>108.2</td><td>110.4</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>135.1</td><td>140.1</td><td>150.2</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>82.5</td><td>83.6</td><td>89.6</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>66.3</td><td>65.4</td><td>68.2</td></tr><tr><td>リハビリ技師</td><td>77.5</td><td>78.3</td><td>75.9</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>109.4</td><td>108.2</td><td>99.5</td></tr><tr><td>臨床工学技士</td><td>33.6</td><td>36.0</td><td>33.7</td></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	医師	106.0	109.8	115.2	看護師	104.8	108.2	110.4	薬剤師	135.1	140.1	150.2	臨床検査技師	82.5	83.6	89.6	放射線技師	66.3	65.4	68.2	リハビリ技師	77.5	78.3	75.9	管理栄養士	109.4	108.2	99.5	臨床工学技士	33.6	36.0	33.7	IV		
項目/年度	R5	R6	R7																																						
医師	106.0	109.8	115.2																																						
看護師	104.8	108.2	110.4																																						
薬剤師	135.1	140.1	150.2																																						
臨床検査技師	82.5	83.6	89.6																																						
放射線技師	66.3	65.4	68.2																																						
リハビリ技師	77.5	78.3	75.9																																						
管理栄養士	109.4	108.2	99.5																																						
臨床工学技士	33.6	36.0	33.7																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																
		※数値は平成 27 年度をベースとした伸び率																																			
21	人事評価制度の運用 人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価するとともに、職員本人へ評価結果をフィードバックすることにより、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努める。	・人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努めた。 ・目標評価については、目標の困難度と達成度を判定することにより、公平かつ客観的な評価を図った。また、6 月支給の勤勉手当において、目標評価の成績優秀者にはその結果を手当に反映した。	IV																																		
22	1 事務部門職員の確保及び育成 経営管理機能を強化するため、病院特有の事務に幅広く精通した職員を計画的に確保・育成する。 また、各分野の専門性の向上を図るため、診療報酬等の医事業務や診療情報分析、病院経営に係る財務経営分析、危機管理等専門性の高い業務に関する研修への参加及び診療情報管理士や医療経営士等の病院運営に寄与する資格取得を支援する。	1 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 ・看護師の確保については、年度途中の退職者を見込み年度当初に 61 人、年度途中 7 人採用することで、長時間勤務やローテーション維持等についての改善を図るとともに、診療報酬の要件である 7：1 看護体制を上回る体制を確保できた。 ・定年退職した医師を 3 人再雇用することで、人員の確保に努めた。 ○医療従事者の確保状況 単位：人 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>常勤医師</td><td>193</td><td>196</td><td>196</td></tr><tr><td>常勤歯科医師</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>常勤看護師</td><td>741</td><td>728</td><td>725</td></tr><tr><td>常勤コメディカル</td><td>283</td><td>289</td><td>285</td></tr><tr><td>ドクターズアシスタント</td><td>55</td><td>55</td><td>57</td></tr><tr><td>看護補助職員</td><td>100</td><td>99</td><td>95</td></tr></table> ※年度末現在 2 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 ・高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実を図った。 ○医師の研修派遣・受入実績 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr></table>	項目／年度	R5	R6	R7	常勤医師	193	196	196	常勤歯科医師	4	4	3	常勤看護師	741	728	725	常勤コメディカル	283	289	285	ドクターズアシスタント	55	55	57	看護補助職員	100	99	95	項目／年度	R5	R6	R7	IV		
項目／年度	R5	R6	R7																																		
常勤医師	193	196	196																																		
常勤歯科医師	4	4	3																																		
常勤看護師	741	728	725																																		
常勤コメディカル	283	289	285																																		
ドクターズアシスタント	55	55	57																																		
看護補助職員	100	99	95																																		
項目／年度	R5	R6	R7																																		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見											
		<table><tr><td>派遣</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>受入</td><td>5</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> ○専門医や研修指導医等の取得に向けた研修、学会・セミナー等の派遣実績 単位：件 <table><tr><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>748</td><td>726</td><td>779</td></tr></table> 【看護師】 ・認定看護師等長期研修5か年計画に基づき、計画的に認定看護師や専門看護師の資格取得のための研修・講習に参加できる体制を確保した。また、看護師特定行為研修指定研修機関として、当センターの看護師に加え、外部の看護師も受け入れる等、特定行為看護師を育成する役割を果たした。 ○認定看護師等資格取得者在籍状況 単位：人	派遣	3	2	1	受入	5	2	3	R5	R6	R7	748	726	779			
派遣	3	2	1																
受入	5	2	3																
R5	R6	R7																	
748	726	779																	

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見
		項目／年度	R5	R6	R7			
認定		がん化学療法	3	3	2			
		がん性疼痛	1	1	1			
		感染管理	4	3	2			
		救急看護	2	2	2			
		小児救急	1	1	0			
		摂食・嚥下障害	2	2	2			
		皮膚・排泄ケア	1	1	1			
		新生児集中ケア	2	2	2			
		クリティカルケア	3	3	3			
		糖尿病看護	0	0	0			
		がん放射線療法看護	1	1	1			
		乳がん看護	1	1	1			
		認定看護管理者	3	3	4			
		慢性心不全	1	1	1			
		緩和ケア	1	1	1			
		認知症	2	2	2			
		脳卒リハビリテーション	1	1	1			
		手術看護	2	2	2			
		精神科看護	1	1	1			
		計		32	31			
専門		小児看護	2	1	1			
		がん看護	1	1	1			
計			3	2	2			
特定行為		創傷管理モデル	1	1	1			
		術中麻酔管理モデル	5	5	5			
		外科術後管理領域	9	9	11			
		呼吸関連・動脈血ガス関連	－	1	1			
		クリティカル	－	1	1			
		栄養および水分関連	－	1	1			
計		15	18	20				

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																												
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																												
		<table border="1"> <tr> <td>NP（診療看護師）</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定遺伝カウンセラー</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> </table>	NP（診療看護師）	－	－	1	認定遺伝カウンセラー	1	1	1	合計	51	52	53																			
NP（診療看護師）	－	－	1																														
認定遺伝カウンセラー	1	1	1																														
合計	51	52	53																														
		○研修実績 <table border="1"> <tr> <th>項 目</th> <th colspan="3">内 容</th> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td colspan="3">単位：人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>認定看護管 理者（1st）</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>認定看護管 理者（2nd）</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>認定看護管 理者（3rd）</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療安全研 修</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	項 目	内 容			認定看護師	単位：人				R5	R6	R7	認定看護管 理者（1st）	8	8	4	認定看護管 理者（2nd）	0	3	0	認定看護管 理者（3rd）	1	1	0	医療安全研 修	2	4	4			
項 目	内 容																																
認定看護師	単位：人																																
	R5	R6	R7																														
認定看護管 理者（1st）	8	8	4																														
認定看護管 理者（2nd）	0	3	0																														
認定看護管 理者（3rd）	1	1	0																														
医療安全研 修	2	4	4																														
		学会等参加 ・日本看護学会 ・日本看護協会研修 ・岐阜県看護協会研修 ・研修会、セミナー ・その他 看護学会等 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>参加延べ数</td> <td>163</td> <td>484</td> <td>413</td> </tr> </table>		R5	R6	R7	参加延べ数	163	484	413																							
	R5	R6	R7																														
参加延べ数	163	484	413																														
		【コメディカル】 ・診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成した。 ○専門研修への参加状況 <table border="1"> <tr> <td>項目／年度</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> </table>	項目／年度	R5	R6	R7																											
項目／年度	R5	R6	R7																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																															
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案 意見																																														
		<table><tr><td colspan="2">薬剤師</td><td>284</td><td>274</td><td>269</td></tr><tr><td rowspan="2">臨床検査 技師</td><td>中央検査部</td><td>128</td><td>162</td><td>70</td></tr><tr><td>病理部</td><td>41</td><td>55</td><td>51</td></tr><tr><td colspan="2">臨床工学技士</td><td>27</td><td>23</td><td>38</td></tr><tr><td colspan="2">リハビリ技師</td><td>53</td><td>55</td><td>54</td></tr><tr><td colspan="2">管理栄養士</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td></tr><tr><td colspan="2">放射線技師</td><td>202</td><td>267</td><td>449</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td>745</td><td>846</td><td>939</td></tr></table> ○主な専門研修・講習会等 【中央放射線部】 ・日本放射線技術学会 ・全国自治体病院放射線部会研修会 ・日本放射線治療セミナー ・日本核医学学会総会 ・日本磁気共鳴医学会 ・医学物理士ミニマム講習会 ・診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会 ・業務拡大に伴う統一講習会 ・PET 研修セミナー ・医療安全管理者養成研修会 ・画像等手術支援認定講習会 ・日本心血管インターベンション治療学会 ・日本 CT 技術学会 ・CVIT 学術集会 ・日本放射線技師学術大会 ・中部放射線医療技術学術大会 ・日本放射線腫瘍学会 ・循環器画像研究会 ・東海放射線腫瘍研究会 ※主な資格取得者数（年度末） <table><tr><td>資格名／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>アドバンス診療放射</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td></tr></table>	薬剤師		284	274	269	臨床検査 技師	中央検査部	128	162	70	病理部	41	55	51	臨床工学技士		27	23	38	リハビリ技師		53	55	54	管理栄養士		10	10	8	放射線技師		202	267	449	合計		745	846	939	資格名／年度	R5	R6	R7	アドバンス診療放射	5	6	6				
薬剤師		284	274	269																																																	
臨床検査 技師	中央検査部	128	162	70																																																	
	病理部	41	55	51																																																	
臨床工学技士		27	23	38																																																	
リハビリ技師		53	55	54																																																	
管理栄養士		10	10	8																																																	
放射線技師		202	267	449																																																	
合計		745	846	939																																																	
資格名／年度	R5	R6	R7																																																		
アドバンス診療放射	5	6	6																																																		

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																												
		<table><tr><td>線技師</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>放射線被曝相談員</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>X線CT認定技師</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>放射線機器管理士</td><td>11</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>放射線管理士</td><td>15</td><td>16</td><td>19</td></tr><tr><td>医療情報技師</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>検診マンモグラフィ 撮影診療放射線技師</td><td>7</td><td>7</td><td>9</td></tr><tr><td>第1種放射線取扱主 任者</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>救急撮影認定技師</td><td>4</td><td>4</td><td>7</td></tr><tr><td>画像等手術支援認定 診療放射線技師</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>医療画像情報精度管 理士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> ※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・放射線被曝相談員 2名 ・放射線機器管理士 3名 ・放射線管理士 3名 ・X線CT認定技師 1名 ・検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師 2名 ・第1種放射線取扱主任者 1名 ・救急撮影認定技師 3名 ・画像等手術支援認定診療放射線技師 2名 【中央検査部】 ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本超音波医学会 ・日本超音波検査学会 ・日本臨床微生物学会 ・日本臨床検査医学会 ・日本輸血・細胞治療学会	線技師				放射線被曝相談員	2	4	6	X線CT認定技師	7	6	7	放射線機器管理士	11	12	15	放射線管理士	15	16	19	医療情報技師	4	4	4	検診マンモグラフィ 撮影診療放射線技師	7	7	9	第1種放射線取扱主 任者	5	5	6	救急撮影認定技師	4	4	7	画像等手術支援認定 診療放射線技師	2	2	4	医療画像情報精度管 理士	2	2	2			
線技師																																																	
放射線被曝相談員	2	4	6																																														
X線CT認定技師	7	6	7																																														
放射線機器管理士	11	12	15																																														
放射線管理士	15	16	19																																														
医療情報技師	4	4	4																																														
検診マンモグラフィ 撮影診療放射線技師	7	7	9																																														
第1種放射線取扱主 任者	5	5	6																																														
救急撮影認定技師	4	4	7																																														
画像等手術支援認定 診療放射線技師	2	2	4																																														
医療画像情報精度管 理士	2	2	2																																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																
		・日本心エコー図学会 ・日本検査血液学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 ・病院中堅職員育成研修 ・日本臨床神経生理学学会 ・日本臨床一般検査学会 ・日本医療検査科学学会 ・岐阜県医学検査学会 ※主な資格取得者数（年度末）単位：人 <table><thead><tr><th>資格名／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>超音波検査士（循環器）</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>超音波検査士（消化器）</td><td>11</td><td>11</td><td>12</td></tr><tr><td>超音波検査士（体表臓器）</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>超音波検査士（泌尿器）</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>超音波検査士（産婦人科）</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>超音波検査士（血管）</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>血管診療技師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>乳房超音波技術試験</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>JHRS 認定心電図専門士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>緊急臨床検査士</td><td>14</td><td>17</td><td>19</td></tr><tr><td>認定血液検査技師</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>認定臨床微生物検査技師</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>認定輸血検査技師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定心電図検査技師</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>認定一般検査技師</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定緊急検査技師</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>2 級臨床検査士(微生物)</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>2 級臨床検査士(循環器)</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></tbody></table>	資格名／年度	R5	R6	R7	超音波検査士（循環器）	8	9	10	超音波検査士（消化器）	11	11	12	超音波検査士（体表臓器）	3	4	4	超音波検査士（泌尿器）	0	0	0	超音波検査士（産婦人科）	0	0	0	超音波検査士（血管）	2	2	2	血管診療技師	2	2	2	乳房超音波技術試験	—	2	3	JHRS 認定心電図専門士	2	2	2	緊急臨床検査士	14	17	19	認定血液検査技師	3	4	4	認定臨床微生物検査技師	2	3	3	認定輸血検査技師	1	1	1	認定心電図検査技師	2	2	3	認定一般検査技師	2	1	1	認定緊急検査技師	—	—	1	心臓リハビリテーション指導士	2	2	2	2 級臨床検査士(微生物)	6	7	8	2 級臨床検査士(循環器)	2	2	2			
資格名／年度	R5	R6	R7																																																																																		
超音波検査士（循環器）	8	9	10																																																																																		
超音波検査士（消化器）	11	11	12																																																																																		
超音波検査士（体表臓器）	3	4	4																																																																																		
超音波検査士（泌尿器）	0	0	0																																																																																		
超音波検査士（産婦人科）	0	0	0																																																																																		
超音波検査士（血管）	2	2	2																																																																																		
血管診療技師	2	2	2																																																																																		
乳房超音波技術試験	—	2	3																																																																																		
JHRS 認定心電図専門士	2	2	2																																																																																		
緊急臨床検査士	14	17	19																																																																																		
認定血液検査技師	3	4	4																																																																																		
認定臨床微生物検査技師	2	3	3																																																																																		
認定輸血検査技師	1	1	1																																																																																		
認定心電図検査技師	2	2	3																																																																																		
認定一般検査技師	2	1	1																																																																																		
認定緊急検査技師	—	—	1																																																																																		
心臓リハビリテーション指導士	2	2	2																																																																																		
2 級臨床検査士(微生物)	6	7	8																																																																																		
2 級臨床検査士(循環器)	2	2	2																																																																																		

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																																								
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見																																																																						
		<table><tr><td>2級臨床検査士(神経生理)</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>2級臨床検査士(免疫血清)</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>医療安全管理者</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臨床検査技師臨地実習指導者</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定</td><td>49</td><td>51</td><td>53</td></tr><tr><td>POCT 測定認定士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>遺伝子分析化学認定士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>有機溶剤作業主任者</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者</td><td>-</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>岐阜県肝炎医療コーディネーター</td><td>1</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>精度管理責任者</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>品質管理検定</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>心電図検定1級</td><td>-</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>心電図検定2級</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>心電図検定3級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>ゆうパックによる検体送付するための研修会</td><td>-</td><td>7</td><td>7</td></tr></table>	2級臨床検査士(神経生理)	-	1	1	2級臨床検査士(免疫血清)	1	1	1	感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）	2	3	3	医療安全管理者	3	3	3	臨床検査技師臨地実習指導者	2	2	3	タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定	49	51	53	POCT 測定認定士	1	1	1	遺伝子分析化学認定士	1	1	1	日本糖尿病療養指導士	1	1	1	有機溶剤作業主任者	4	4	4	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	-	3	3	岐阜県肝炎医療コーディネーター	1	16	16	精度管理責任者	2	1	1	品質管理検定	1	1	1	心電図検定1級	-	1	2	心電図検定2級	1	1	2	心電図検定3級	1	1	1	ゆうパックによる検体送付するための研修会	-	7	7				
2級臨床検査士(神経生理)	-	1	1																																																																											
2級臨床検査士(免疫血清)	1	1	1																																																																											
感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）	2	3	3																																																																											
医療安全管理者	3	3	3																																																																											
臨床検査技師臨地実習指導者	2	2	3																																																																											
タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定	49	51	53																																																																											
POCT 測定認定士	1	1	1																																																																											
遺伝子分析化学認定士	1	1	1																																																																											
日本糖尿病療養指導士	1	1	1																																																																											
有機溶剤作業主任者	4	4	4																																																																											
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	-	3	3																																																																											
岐阜県肝炎医療コーディネーター	1	16	16																																																																											
精度管理責任者	2	1	1																																																																											
品質管理検定	1	1	1																																																																											
心電図検定1級	-	1	2																																																																											
心電図検定2級	1	1	2																																																																											
心電図検定3級	1	1	1																																																																											
ゆうパックによる検体送付するための研修会	-	7	7																																																																											
		※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・超音波検査士（循環器） 1名 ・超音波検査士（体表臓器） 1名 ・乳房超音波技術試験 B判定 1名 A判定1名 ・緊急臨床検査士 1名 ・認定血液検査技師 1名 ・認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名 ・2級臨床検査士(微生物) 1名																																																																												

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																				
		・感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT） 1名 ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 3名 ・岐阜県肝炎医療コーディネーター 1名 ・心電図検定1級 1名 ・心電図検定2級 1名 ・心電図検定3級 1名 ・ゆうパックによる検体送付するための研修会 1名 ・臨床検査技師臨地実習指導者講習会 1名 ・厚生労働省 院内感染対策講習会 1名 ・岐阜院内臓器提供連絡調整員 1名																																							
		【病理部】 ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本臨床細胞学会 ・認定病理検査技師講習会 ・日本遺伝カウンセリング学会 ・日本人類遺伝学会 ・日本認定遺伝カウンセラー協会 ※主な資格取得者数（年度末） 単位：人 <table><tr><th>資格名／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>認定病理検査技師</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>細胞検査士</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>二級臨床検査士（病理学）</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>検体採取等の講習会修了者</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定</td><td>—</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>がんゲノム医療コーディネーター</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>臨床検査技師臨地実習指導者</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td></tr><tr><td>化学物質管理者</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td></tr></table> ※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定 1名	資格名／年度	R5	R6	R7	認定病理検査技師	7	7	7	細胞検査士	7	7	7	二級臨床検査士（病理学）	1	1	1	検体採取等の講習会修了者	8	8	8	タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定	—	3	4	がんゲノム医療コーディネーター	—	1	1	臨床検査技師臨地実習指導者	—	—	2	化学物質管理者	—	—	1			
資格名／年度	R5	R6	R7																																						
認定病理検査技師	7	7	7																																						
細胞検査士	7	7	7																																						
二級臨床検査士（病理学）	1	1	1																																						
検体採取等の講習会修了者	8	8	8																																						
タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定	—	3	4																																						
がんゲノム医療コーディネーター	—	1	1																																						
臨床検査技師臨地実習指導者	—	—	2																																						
化学物質管理者	—	—	1																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																								
		・臨床検査技師臨地実習指導者 2名 ・化学物質管理者 1名 【薬剤部】 ・日本医療薬学会年会 ・日病薬 日薬東海ブロック合同学術大会 ・全日本自治体病院学会 ・日本麻酔科学会 周術期管理チームセミナー ・岐阜県病院薬剤師会研修会 ・岐阜県病院協会医学会 ・日本病院薬剤師会研修会 ・日本糖尿病学会 ・日本小児臨床薬理学会 ・日本腎臓病薬物療法学会 ・日本緩和医療薬学会 ・日本薬学会 ・日本 TDM 学会 ・日本化学療法学会 ・日本臨床救急医学会 ・感染制御専門薬剤師講習会 ・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会 ・妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修会 ・放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会 ・がん専門薬剤師集中教育講座 ・日本臨床腫瘍薬学会 ※主な資格取得者数（年度末） 単位：人 <table><tr><th>資格名／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>感染制御認定薬剤師</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>抗菌化学療法認定薬剤師</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>日病薬 病院薬学認定薬剤師</td><td>29</td><td>33</td><td>38</td></tr><tr><td>がん専門薬剤師</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>がん指導薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr></table>	資格名／年度	R5	R6	R7	感染制御認定薬剤師	3	3	3	抗菌化学療法認定薬剤師	4	6	6	日病薬 病院薬学認定薬剤師	29	33	38	がん専門薬剤師	3	4	4	がん指導薬剤師	1	1	2			
資格名／年度	R5	R6	R7																										
感染制御認定薬剤師	3	3	3																										
抗菌化学療法認定薬剤師	4	6	6																										
日病薬 病院薬学認定薬剤師	29	33	38																										
がん専門薬剤師	3	4	4																										
がん指導薬剤師	1	1	2																										

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見																																																																									
		<table><tr><td>緩和薬物療法認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>周術期管理チーム認定薬剤師</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>外来がん治療認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>腎臓病薬物療法認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>腎臓病療養指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小児薬物療法認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>救急認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>NST 専門療法士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>心不全療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定実務実習指導薬剤師</td><td>5</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>医薬品情報認定薬剤師</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr></table> ※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・病院薬学認定薬剤師 6名 ・認定実務実習指導薬剤師 1名 ・医薬品情報認定薬剤師 1名 【中央リハビリテーション部】 ・日本ハンドセラピー学会 ・日本理学療法学会 ・日本集中治療医学会 ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会 ・日本心臓リハビリテーション学会 ※主な資格取得者数（年度末） 単位：人 <table><tr><td>資格名／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>3 学会合同呼吸療法認定士</td><td>33</td><td>35</td><td>36</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション指導士</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td></tr><tr><td>認定理学療法士</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>心不全療養指導士</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>				緩和薬物療法認定薬剤師	2	2	2	日本糖尿病療養指導士	4	5	6	周術期管理チーム認定薬剤師	3	3	4	外来がん治療認定薬剤師	1	1	1	腎臓病薬物療法認定薬剤師	1	1	1	腎臓病療養指導士	2	2	2	小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2	救急認定薬剤師	2	2	2	NST 専門療法士	2	2	2	心不全療養指導士	1	1	1	認定実務実習指導薬剤師	5	7	8	医薬品情報認定薬剤師	-	-	1	資格名／年度	R5	R6	R7	3 学会合同呼吸療法認定士	33	35	36	心臓リハビリテーション指導士	6	7	9	認定理学療法士	7	7	7	心不全療養指導士	4	5	5	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1				
緩和薬物療法認定薬剤師	2	2	2																																																																														
日本糖尿病療養指導士	4	5	6																																																																														
周術期管理チーム認定薬剤師	3	3	4																																																																														
外来がん治療認定薬剤師	1	1	1																																																																														
腎臓病薬物療法認定薬剤師	1	1	1																																																																														
腎臓病療養指導士	2	2	2																																																																														
小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2																																																																														
救急認定薬剤師	2	2	2																																																																														
NST 専門療法士	2	2	2																																																																														
心不全療養指導士	1	1	1																																																																														
認定実務実習指導薬剤師	5	7	8																																																																														
医薬品情報認定薬剤師	-	-	1																																																																														
資格名／年度	R5	R6	R7																																																																														
3 学会合同呼吸療法認定士	33	35	36																																																																														
心臓リハビリテーション指導士	6	7	9																																																																														
認定理学療法士	7	7	7																																																																														
心不全療養指導士	4	5	5																																																																														
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1																																																																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																														
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見																												
		<table><tr><td>LSVT®資格認定</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>公認心理士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定ハンドセラピスト</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>集中治療理学療法士</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr></table> ※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・3学会合同呼吸療法認定士 1名 ・心臓リハビリテーション指導士 2名 ・認定理学療法士 1名 ・集中治療理学療法士 1名	LSVT®資格認定	2	2	2	公認心理士	1	1	1	認定ハンドセラピスト	1	1	2	集中治療理学療法士	-	-	1																		
LSVT®資格認定	2	2	2																																	
公認心理士	1	1	1																																	
認定ハンドセラピスト	1	1	2																																	
集中治療理学療法士	-	-	1																																	
		【栄養部】 ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・日本心臓リハビリ学会学術集会 ・日本臨床栄養代謝学会 ・日本病態栄養学会年次学術集会 ・がん専門管理栄養士セミナー ※主な資格取得者数（年度末） <table><tr><td>資格名／年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>NST 専門療法士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>糖尿病療養指導士</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td></tr><tr><td>病態栄養専門管理栄養士</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>がん病態栄養専門管理栄養士</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>アレルギー疾患療養指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr></table> ※令和7年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・病態栄養専門管理栄養士 1名 ・がん病態栄養専門管理栄養士 1名	資格名／年度	R5	R6	R7	NST 専門療法士	5	5	5	糖尿病療養指導士	5	5	4	病態栄養専門管理栄養士	4	5	5	がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	3	心臓リハビリテーション指導士	1	1	1	アレルギー疾患療養指導士	2	2	1						
資格名／年度	R5	R6	R7																																	
NST 専門療法士	5	5	5																																	
糖尿病療養指導士	5	5	4																																	
病態栄養専門管理栄養士	4	5	5																																	
がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	3																																	
心臓リハビリテーション指導士	1	1	1																																	
アレルギー疾患療養指導士	2	2	1																																	
		【臨床工学部】 ・日本臨床工学技士会 ・岐阜県臨床工学技士会 ・日本心血管インターベンション治療学会																																		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																				
		・日本不整脈心電学会 ・日本透析医学会 ・日本人工臓器学会教育セミナー ・臨床工学技士臨床実習指導者講習会 ※主な資格取得者数（年度末）単位：人 <table><thead><tr><th>資格名／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>体外循環技術認定士</td><td>5</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>透析技術認定士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>呼吸療法認定士</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>不整脈治療関連専門臨床工学技士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定集中治療関連臨床工学技士</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>植込み型心臓デバイス認定士</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>心血管インターベンション技師</td><td>6</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>第一種ME 技術者</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>医療機器情報コミュニケーター（MDIC）</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>認定ホスピタルエンジニア</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>ICLS 認定インストラクター</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>AHA-BLS プロバイダーコース</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>AHA-ACLS プロバイダーコース</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>日本アフェレイシス学会認定技士</td><td>－</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>集中治療専門臨床工学技士</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td></tr></tbody></table>	資格名／年度	R5	R6	R7	体外循環技術認定士	5	8	8	透析技術認定士	5	5	5	呼吸療法認定士	5	5	6	不整脈治療関連専門臨床工学技士	1	1	1	認定集中治療関連臨床工学技士	3	4	4	植込み型心臓デバイス認定士	1	2	3	心血管インターベンション技師	6	7	7	第一種ME 技術者	1	1	1	医療機器情報コミュニケーター（MDIC）	2	2	2	認定ホスピタルエンジニア	1	1	1	ICLS 認定インストラクター	1	1	1	AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4	AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4	心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士	1	1	1	日本アフェレイシス学会認定技士	－	1	1	集中治療専門臨床工学技士	－	－	1			
資格名／年度	R5	R6	R7																																																																						
体外循環技術認定士	5	8	8																																																																						
透析技術認定士	5	5	5																																																																						
呼吸療法認定士	5	5	6																																																																						
不整脈治療関連専門臨床工学技士	1	1	1																																																																						
認定集中治療関連臨床工学技士	3	4	4																																																																						
植込み型心臓デバイス認定士	1	2	3																																																																						
心血管インターベンション技師	6	7	7																																																																						
第一種ME 技術者	1	1	1																																																																						
医療機器情報コミュニケーター（MDIC）	2	2	2																																																																						
認定ホスピタルエンジニア	1	1	1																																																																						
ICLS 認定インストラクター	1	1	1																																																																						
AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4																																																																						
AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4																																																																						
心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士	1	1	1																																																																						
日本アフェレイシス学会認定技士	－	1	1																																																																						
集中治療専門臨床工学技士	－	－	1																																																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																												
		※令和 7 年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・呼吸療法認定士 1 人 ・集中治療専門臨床工学技士 1 人 【事務局】 ・日本医療ソーシャルワーカー協会 ・岐阜県ソーシャルワーカー協会 ・日本社会福祉士会 ・岐阜県社会福祉士会 ・救急認定ソーシャルワーカー認定機構 ※主な資格取得者数（年度末）単位：人 <table><tr><th>資格名／年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>がん相談支援センター相談員基礎研修 1・2</td><td>13</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>がん相談支援センター相談員基礎研修 3</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>救急認定ソーシャルワーカー</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>肝炎医療コーディネーター</td><td>11</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>医療メディエーター</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td></tr></table> 3 事務部門職員の確保及び育成 ・専門性の向上のため、職務に関連する研修の実施や資格取得を支援する「事務局職員人材育成計画」に沿って、医療経営士の資格取得に向けた研修を受講させた。 ○事務職員の状況（年度末）単位：人 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>プロパー職員</td><td>70</td><td>68</td><td>67</td></tr><tr><td>うち、診療情報管理士</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>うち、医療経営士</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>うち、院内がん登録実務中級認定者</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	資格名／年度	R5	R6	R7	がん相談支援センター相談員基礎研修 1・2	13	15	15	がん相談支援センター相談員基礎研修 3	6	6	6	救急認定ソーシャルワーカー	1	1	1	肝炎医療コーディネーター	11	14	14	医療メディエーター	4	6	6	項目/年度	R5	R6	R7	プロパー職員	70	68	67	うち、診療情報管理士	12	12	12	うち、医療経営士	3	3	3	うち、院内がん登録実務中級認定者	4	4	4			
資格名／年度	R5	R6	R7																																														
がん相談支援センター相談員基礎研修 1・2	13	15	15																																														
がん相談支援センター相談員基礎研修 3	6	6	6																																														
救急認定ソーシャルワーカー	1	1	1																																														
肝炎医療コーディネーター	11	14	14																																														
医療メディエーター	4	6	6																																														
項目/年度	R5	R6	R7																																														
プロパー職員	70	68	67																																														
うち、診療情報管理士	12	12	12																																														
うち、医療経営士	3	3	3																																														
うち、院内がん登録実務中級認定者	4	4	4																																														

項目 No.	R 7年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見
		うち、院内がん登録実務 初級認定者	1	1	1				
		県派遣職員	2	2	2				
		合計	72	70	69				
23	医療DXへの対応 電子処方箋やマイナ保険証の活用等による医療情報の共有化を含む全国医療情報プラットフォームへの準拠等、国が推進する医療DXの各施策の状況を随時把握し、導入を検討する。	- 電子処方箋は令和6年7月から運用を開始し、電子処方箋の発行および処方情報のオンライン資格確認環境への格納を実施している。院外薬局とも情報共有を行い、電子処方箋の円滑な利用に向けた取組を継続している。 - マイナ診察券対応を令和6年1月から開始し、マイナナンバーカードの利用促進に取り組んでいる。さらに、令和7年9月からはマイナスマホにも対応し、国が推進する医療DXへの対応を推進している。 - 令和7年4月から救急時医療情報閲覧機能の運用を開始し、国が推進する医療DXに対して迅速かつ適切に対応してきている。					IV		
24	コンプライアンス（法令等の遵守）の徹底 医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程を遵守することで、保健所や厚生局からの立入検査及び指導に適切に対応する。 また、監事監査、内部監査、会計監査人監査等の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスを確実なものとする。 岐阜県情報公開条例に基づく公文書の公開及び個人情報の保護に関する法律その他法人規程に基づくカルテ等医療情報の開示を着実にを行い、医療の透明性を確保するとともに、医療情報提供の環境を整備する。						III		医療倫理の受講状況の改善をすること。
25	2 情報セキュリティや個人情報保護に対する教育 情報セキュリティや個人情報保護に対する研修及び啓発に加え、最新のセキュリティ危機事案に関する情報収集に基づくサイバーセキュリティ（サイバーテロ）を想定した訓練を行い、対応方法、対応能力を確認する。また、事案発生時に	2 情報セキュリティや個人情報保護に対する教育 - 新規採用職員への導入研修に加え、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を継続的に実施した。あわせて、「情報セキュリティ通信」や周知文書を随時発行することで、常に最新の脅威情報を共有し、組織全体のリテラシー向上と意識の定着を図った。 2月に岐阜県警察と合同で「サイバーインシデント対応研修」を開催した。病院長をはじめ、医師、看護師、コメディカル、事務等、職種を横断して計46名が参加。サイバー攻撃により電子カルテシステムが利用不能となった事					IV		

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見								
	備え、岐阜県や岐阜県警察等の関係機関との相互理解を深め、連携を強化する。	態を想定し、最新の脅威動向の把握とともに、有事の際の初動対応シミュレーションを通じて組織的な危機管理能力を強化した。											
26	多様な契約手法の導入 業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定をはじめ、複数年契約や関連性のある業務の包括委託化等多様な契約手法の導入を検討する。また、複数年契約を行うことによるメリットの有無を検討し、メリットがあるものについては、積極的に複数年契約の締結を行う。	・経営分析等を行うことで、薬品や診療材料の購入価格や委託業務の複数年契約等の経営改善すべき点の把握に努め、効率的な病院運営を図るための方策等を検討した。 ・複数メーカーの機種選定を進め、ベンチマークを活用した交渉による医療機器の購入を行い、当初の予定金額より年間約 74 百万円のコスト削減ができた。 ・診療材料について、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 ・医薬品について、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行い、経費削減を図った。 ・複数年契約が終了する一部の業務委託において、その評価を行うとともに、経営的にメリットのある契約手法を検討し、次期契約の締結を行った。 ○複数年契約の推移 単位：件 <table><tr><td>項目/年度</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>契約数</td><td>20</td><td>37</td><td>28</td></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	契約数	20	37	28	IV		
項目/年度	R5	R6	R7										
契約数	20	37	28										
27	2 未収金の発生防止対策等 診療費に係る未収金の発生防止対策として、緊急に入院となった患者への支払相談の早期着手、患者同意のもとで行う保険や限度額適用認定証のオンライン確認等により、未収金発生の未然防止を徹底する。 また、支払に関する相談に応じる体制の確保に加え、現金又はクレジットカード以外の支払手法の拡大を検討する。 やむなく未収金となった場合には、支払計画の作成を促すとともにその履行を確認し、早期の督促、催告を実施する。あわせて回収が困難と見込まれる未収金については、弁護士法人への債権回収業務委託を引き続き実施し、効果的、効率的な	2 未収金の発生防止対策等 ＜発生防止＞ ・入院決定時に概算費用の提示や福祉制度の説明等を行った。マイナンバーカードの利用を推進し、オンラインで限度額が確認できるようにした。 ・救急搬送患者に対しては、医療相談員が身元確認、保険確認を早期に行い、医療保険制度の活用を紹介するなど高額な患者負担額とならないよう努めた。 ・出産に伴う入院費については、出産一時金直接払制度を利用していただくよう徹底を図った。制度の利用が困難な事案については、医療相談員が早期に介入し、退院時の支払いが出来るよう支援を行った。 ＜回収＞ ・毎月 3 回、定期的に督促状を發布し、早期に未収金回収に着手した。 ・督促状發布後、随時催告状を発送するとともに必要に応じ夜間電話催告や臨宅催告を行った。 ・未納者が受診した際には、面談による納付催告を実施した。	IV	I または II	債券の購買、売却の実態の説明が不十分なので、評価者の理解が不十分ではあるが、収入の確保の項目にある“効果的な資金運用が適切に行われている”とは判断できないので、目的を達成しているとは判断できないと思います。								

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																							
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																						
	未収金回収に努める。 4 効率的な資金運用 現金の保管方法について、安定した債券の取得等による効率的かつ有利な資金運用を継続する。	・回収困難な未収金について、弁護士法人に回収業務を委託し、回収の実績を上げた。 ・診療費を分納により支払っている患者について、令和2年8月より直接納付から金融機関口座振替への切替えを進める取組を継続し、確実な収納に努めた。 ○回収実績（年度末現在） <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>累積委託金額 (単位：千円)</td><td>215, 571</td><td>232, 538</td><td>243, 669</td></tr><tr><td>累積回収金額 (単位：千円)</td><td>99, 224</td><td>102, 093</td><td>105, 486</td></tr><tr><td>累積回収率 (単位：%)</td><td>46. 0</td><td>43. 9</td><td>43. 3</td></tr><tr><td>単年度回収金額 (単位：千円)</td><td>3, 219</td><td>2, 868</td><td>3, 394</td></tr></table> ○未収金発生状況（翌年度5月末現在） <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">R5</th><th colspan="2">R6</th><th colspan="2">R7</th></tr><tr><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th></tr><tr><td>過年度分</td><td>485</td><td>43, 583</td><td>563</td><td>48, 010</td><td>527</td><td>41, 731</td></tr><tr><td>現年度分</td><td>302</td><td>22, 454</td><td>257</td><td>12, 447</td><td>257</td><td>16, 119</td></tr><tr><td>合計</td><td>787</td><td>66, 037</td><td>820</td><td>60, 457</td><td>784</td><td>57, 850</td></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	累積委託金額 (単位：千円)	215, 571	232, 538	243, 669	累積回収金額 (単位：千円)	99, 224	102, 093	105, 486	累積回収率 (単位：%)	46. 0	43. 9	43. 3	単年度回収金額 (単位：千円)	3, 219	2, 868	3, 394		R5		R6		R7		件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	過年度分	485	43, 583	563	48, 010	527	41, 731	現年度分	302	22, 454	257	12, 447	257	16, 119	合計	787	66, 037	820	60, 457	784	57, 850			
項目/年度	R5	R6	R7																																																								
累積委託金額 (単位：千円)	215, 571	232, 538	243, 669																																																								
累積回収金額 (単位：千円)	99, 224	102, 093	105, 486																																																								
累積回収率 (単位：%)	46. 0	43. 9	43. 3																																																								
単年度回収金額 (単位：千円)	3, 219	2, 868	3, 394																																																								
	R5		R6		R7																																																						
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)																																																					
過年度分	485	43, 583	563	48, 010	527	41, 731																																																					
現年度分	302	22, 454	257	12, 447	257	16, 119																																																					
合計	787	66, 037	820	60, 457	784	57, 850																																																					
28	1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底 医薬品及び診療材料については、ベンチマーク及び外部アドバイザーの活用により、価格交渉を行うとともに、より安価で適正な品質の同種同効品への切り替えを推進し、購入費の削減に努める。 また、物流システムによる医薬品及び診療材料の定数設定・在庫管理を行いながら、定期的に棚	1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底 ・医薬品については、アドバイザー活用による情報収集により価格交渉を実施し、年間薬価差益が約2億3千万円となった。 ・診療材料については、ベンチマークを活用して価格交渉を実施し、当初の予定金額より年間約8,100万円のコスト削減ができた。 ・各部署における診療材料の定数配置について、継続的に品目及び数量の見直しを行い、効率的な管理を推進した。 ○医薬収益に対する材料費比率 単位：％	Ⅳ	Ⅲ	経費削減に関し、最も大切な観点は、経費上最大ウェイトを占める人件費の削減である。報告のなかには、一切人件費削減の概念がない。さらに数年来再三具申している、県総が担うべき政策医療に特化し、一般医療は削減しなければならない問題に関して、一般医療の縮小に関する経費の削減概念が全																																																						

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																												
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案	意見																										
	卸を実施し、適正な管理を行う。また、物流システムによる医薬品及び診療材料の定数設定・在庫管理を行いながら、定期的に棚卸を実施し、適正な管理を行う。 3 経費の削減 各種委託契約の仕様書や郵送による入札の積極的な活用を含む入札条件及び契約方式を十分検討することにより委託料や光熱水費等の削減を目指す。また、電気料金の削減を目的として、引き続き照明のLED化を進めていく。複数年契約が終了する契約については、次期契約の契約方式の検討を行い、新たな契約を締結する。さらに、医療機器等の保守料については、医療的な安全性を十分に考慮した上で、必要最小限となるように努める。	<table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>材料費比率 ※</td><td>31.4</td><td>32.0</td><td>33.9</td></tr><tr><td>(内薬品費)</td><td>16.6</td><td>17.7</td><td>18.7</td></tr><tr><td>(内診療材料費)</td><td>14.8</td><td>14.3</td><td>15.2</td></tr></table> ※重症心身障がい児施設を除く 3 経費の削減 ・無駄な電気利用を抑制するため、空調・照明の管理スケジュールの変更、空調の温度設定の見直し等のシステム的な対応を行った。 ・令和7年度には、委託費等の経費削減を目的としたローコストオペレーションコンサルティング契約を締結し、業者との交渉の結果、年間約700万円の削減効果を得た。 ○経費関連数値の年度推移 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>経費率 (単位：％)</td><td>15.8</td><td>15.8</td><td>15.6</td></tr><tr><td>光熱水費 (単位：百万円)</td><td>462</td><td>547</td><td>510</td></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	材料費比率 ※	31.4	32.0	33.9	(内薬品費)	16.6	17.7	18.7	(内診療材料費)	14.8	14.3	15.2	項目/年度	R5	R6	R7	経費率 (単位：％)	15.8	15.8	15.6	光熱水費 (単位：百万円)	462	547	510				く見られず、むしろ、経費をより多く使用すべく、事業拡大を考えているととらえられる発言を繰り返されておられます。これらのことから、経費削減に関しては、目的を達成しているとはいがたく、例年どおりの活動と判断されます。
項目/年度	R5	R6	R7																															
材料費比率 ※	31.4	32.0	33.9																															
(内薬品費)	16.6	17.7	18.7																															
(内診療材料費)	14.8	14.3	15.2																															
項目/年度	R5	R6	R7																															
経費率 (単位：％)	15.8	15.8	15.6																															
光熱水費 (単位：百万円)	462	547	510																															
29	予算（人件費の見積含む）、収支計画及び資金計画 新たな第4期中期計画に基づく「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組み」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、経常収支比率100％以上、医業収支比率100％以上（重症心身障がい児施設を除く。）、職員給与費対医業収益比率50％以下（重症心身障がい児施設を除く。）の達成を目指す。			Ⅲ	Ⅱ	昨年の評価委員会で、一昨年までの投資活動に関して、問題ありと具申した。にもかかわらず、昨年の計画・決算において高額の投資活動を行っている。この行為は、この項目が求める“業務運営の改善と効率化”において本来行うべき業務を適切に行っているとは判断できないと思われます。																												
30	1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実 24時間保育や病児・病後児保育を継続的に実施することで、育児中の職員が安心して勤務できる	1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実 ・保育施設については、平成24年2月から24時間保育を継続している。また、病児・病後児保育施設の利用者についても、定員を増やし、利用資格の拡大を図ったことで、多くの職員が採用できている。		Ⅳ																														

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																								
	環境をつくる。また、保育の質の向上や運営体制の充実等を図るため、職員の意向にも配慮したより良い保育環境の整備に取り組む。 離職防止に向けた取組みとしては、看護師定着プログラムを継続的に実施する。 また、ワークライフバランスの実現に向け、全ての職員が働きやすい労務環境の構築について引き続き検討する。 具体的には、1 箇月単位の変形労働時間制の利点を活かし、時間外勤務時間の縮減に取り組むとともに、年次有給休暇は全職員が年 10 日以上の取得を目標とし、特別休暇の取得促進、代休の取得や週休日の振替の徹底等、適切な労働時間の管理の下、職員の勤務環境に配慮する。 2 働き方改革の実現に向けた取組 「働き方改革推進計画」や「医師労働時間短縮計画」に基づき、勤怠管理システム等の活用により適正な労務管理を継続するとともに、働き方改革の推進に向けたドクターズアシスタントの拡充及び能力開発をはじめ、看護補助者の安定確保、特定看護師やコメディカルの活用等によるタスク・シフト（シェア）、労務管理システムの導入や勤怠管理システムの利活用及び各システムの更新等による業務効率化を進める。特に、医師の働き方改革については、令和6年4月から開始された時間外労働上限規制に対して、必要な取組みを継続して実施する。 3 職員のモチベーション向上に資する取組 職員提案箱や職員調等により職員のニーズを把握し必要に応じて対策を講じていくとともに、	・ハラスメント防止に向けて、2つの院内相談窓口の設置や専用アドレスの運用を継続した。 ・女性職員が働きやすい労務環境への改善に向け、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」にて、令和7年4月からの5か年を期間とする次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画及び女性活躍推進法に基づく行動計画を策定した。 ・衛生・労働安全委員会で、長時間残業職員数を報告し、現状把握と縮減に向けた啓発に努めた。 ・看護師のみならず医師やコメディカルについても、変形労働時間制による勤務を採用することにより、時間外勤務時間の縮減に努めた。 ・年 10 日以上の子休取得目標を病院全体で推進し、年次休暇の取得日数が芳しくない職員には個別に取得促進を指導した。 ○院内保育所の運営状況（年度末現在） ・入所施設（こばと） 単位：人 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>入所者数</td><td>43</td><td>35</td><td>35</td></tr><tr><td>保育士数</td><td>19</td><td>19</td><td>19</td></tr></table> ・病児・病後児保育施設（バンビ） 単位：人 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>延べ利用者数</td><td>387</td><td>317</td><td>228</td></tr><tr><td>保育士・看護師数</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> ○職員 1 人あたりの休暇、時間外勤務状況 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>年次有給休暇 （単位：日/年）</td><td>15.2</td><td>14.9</td><td>14.0</td></tr><tr><td>時間外勤務 （単位:時間/月）</td><td>11.6</td><td>10.9</td><td>7.65</td></tr></table> ○医師 1 人あたりの時間外勤務状況 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr></table>	項目/年度	R5	R6	R7	入所者数	43	35	35	保育士数	19	19	19	項目/年度	R5	R6	R7	延べ利用者数	387	317	228	保育士・看護師数	3	2	2	項目/年度	R5	R6	R7	年次有給休暇 （単位：日/年）	15.2	14.9	14.0	時間外勤務 （単位:時間/月）	11.6	10.9	7.65	項目/年度	R5	R6	R7			
項目/年度	R5	R6	R7																																										
入所者数	43	35	35																																										
保育士数	19	19	19																																										
項目/年度	R5	R6	R7																																										
延べ利用者数	387	317	228																																										
保育士・看護師数	3	2	2																																										
項目/年度	R5	R6	R7																																										
年次有給休暇 （単位：日/年）	15.2	14.9	14.0																																										
時間外勤務 （単位:時間/月）	11.6	10.9	7.65																																										
項目/年度	R5	R6	R7																																										

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）				自己 評価	評価 提案 意見
	人事評価制度や職員表彰制度による公平で客観的な評価を実施した上で、評価結果に対する処遇反映のあり方について検討し、病院で働く全ての職員が誇りを持って職責が果たせるよう、やりがいの創出に努める。	時間外勤務 (単位:時間/月)	42.38	40.30	37.32		
		2 働き方改革の実現に向けた取組 ・職員（医師除く）の労働時間の適正な把握に向けて、タイムレコーダー（IDカードによる打刻システム）を継続した。 ・医師の勤怠管理に向けてクラウド型システム（Dr. joy）により、ビーコンでの自動打刻及び時間外勤務時間や年次休暇等の休暇について電子申請（承認）を継続した。 ・医師の労働時間短縮に向け、「医師の働き方改革に関するワーキンググループ」会議における議論を踏まえ策定した業務と自己研さんの区分に基づき、取り組んだ。 ・医師の負担軽減に向け、医師と医療支援部門職員との間でタスク・シフト／シェアを推進するとともに、随時項目の洗い出しを行った。 ・医師の業務負担軽減に向けたタスク・シフト／シェアを進めるため、ドクターズアシスタント（医師事務作業補助者）の定着に向け人員配置のバックアップ体制を維持し、勤務時間を延長する勤務体系等を活用することで、医師ニーズを満たした。 ・医師事務支援に係る幅広い知識とスキルを持ったドクターズアシスタントを評価するため、段階的な評価制度を継続した。 ・従来からの産業医（当院医師）による健康相談に加え、時間外・休日労働が100 時間以上となる前に必要に応じて就業上の措置を講ずることを目的に、当該月の15 日時点で時間外・休日労働時間が45 時間を超えた医師を抽出し、面接指導（健康確保措置）を実施した。 ・勤務間インターバル確保（連続勤務時間制限）及び代償休息確保（健康確保措置）を可能とする勤務体制（予定勤務表の作成）となるよう、当直明けは原則休日とし、遅くとも正午にはお退勤するよう努めた。 ・病院ホームページに、「症状説明等（インフォームド・コンセント）の時間内実施」、「複数主治医制の導入」、「タスク・シフト／シェアの推進」について掲載（入院案内資料にも掲載）し、患者への周知に努めた。					
		3 職員のモチベーション向上に資する取組 ・人事評価制度により、公平かつ客観的な評価を図り、目標評価における成績優秀者にはその結果を手当に反映した。					

項目 No.	R 7 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
		・職員提案箱を設置し、回収した意見を病院運営に反映した。			
31	1 岐阜県との連携・強化 岐阜県との人事交流を含めた連携を推進する。 2 他の地方独立行政法人との連携・強化 岐阜県全体の中核病院として、医師の診療応援等の支援や、看護師、コメディカル等の医療従事者の人事交流など、岐阜県が設立した他の地方独立行政法人との連携を推進する。		III		より連携を深めてほしい。